

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105008
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホーム エデンの丘
訪問調査日	平成19年12月1日
評価確定日	平成19年12月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670105008
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホーム エデンの丘
所在地	鹿児島市坂元町161番地4 (電話) 099-247-5050
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年12月1日

【情報提供票より】(平成19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年2月13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	18人、非常勤 人、常勤換算 18人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	7名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.2歳	最低	74歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村(哲)産婦人科・内科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市内の住宅地に建てられ、敷地は広く、ホーム自体の間取りもゆったりしており明るく開放感が感じられる。管理者をはじめとして、スタッフが地域の中でのホームの役割をよく理解しており、地域の敬老会、校区運動会、夏祭り等へ積極的に参加している。運営推進会議も地域包括支援センターや民生委員、ご家族等の参加のもと定期的に行われており、積極的に取り組む姿勢が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された改善課題については、早急に手すりの設置を行ったり、全職員が普通救命講習を受けて救急処置の対応に備える等、積極的な取り組みが見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を実施して管理者が取り纏めを行っており、日常業務の再確認の機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	2ヶ月毎に運営推進会議が開催され、サービス内容や行事等のお知らせ、前回の評価結果や、その後改善された内容の報告、その他の情報交換等が行われている。会議の中で出た意見に対しては前向きに取り組まれており、その成果はその後の運営推進会議で報告されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	「御家族連絡表」を送付し、日々の入居者の状況や健康状態を毎月ご家族に伝えていく。また希望者には写真やホームで編集したDVDの送付、配布も行っている。玄関に意見箱を設置しており、年2回の家族会や担当者会議の際に意見を聞く機会を持ち、その後のケアに活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者が窓口となり地域包括支援センターの職員と連携したり、市役所に出向いて助言、指導を受けたりしている。自治会に加入して行事にも参加し、ホーム主催の夏祭りには地域の方々をお招きして交流を深めている。また生涯学習会での発表や、安全市民パトロールへの参加、DVDによるホームの紹介など、地域との繋がりを強めるように努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「温かい家庭的な雰囲気の中で、ご家族、地域の方々と一緒に心豊かに穏やかな生活が送れるように援助します」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は食堂に掲示しており、朝礼時に唱和することで理念に基づいたケアが行えるように努めている。入職時には、オリエンテーションにおいて理解できるように説明を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して行事に参加したり、ホーム主催の夏祭りには地域の方々をお招きして交流を深めている。また、生涯学習会での発表や、安全市民パトロールへの参加、DVDによるホームの紹介など、地域との繋がりを強めるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で実施している。前回の外部評価時に指摘された課題については積極的に改善され、運営推進会議の中でも報告されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議が開催され、サービスの状況報告や情報交換等が行われている。会議の中で出た意見に対しては前向きに取り組まれ、その成果はその後の運営推進会議で報告されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となり、地域包括支援センターの職員と連携したり、市役所に出向いて助言、指導を受けたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「御家族連絡表」を送付し、日々の入居者の状況や健康状態をご家族に伝えるようにしている。また、写真やホームで編集したDVDの送付、配布も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回の担当者会議には、必ずご家族に参加していただきており意見を聞くことができる。また、玄関に意見箱を置き意見を聞くように努めている。家族会は正式な設置には至っていないが、父の日・母の日の時期とクリスマスの時期に合わせて、年2回定期的に開催している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員の紹介をして、ごく自然に信頼関係が保たれるように支援している。また普段から、ユニット(1Fと2F)毎の交流を大切にしており、職員の交代時等に、入居者への影響が少なくなるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に派遣し、その内容を職員会議などにて報告している。また、管理者は現場での教育を重視しており、朝礼・終礼における指導により、明るい雰囲気の中にありながら仕事への厳しさを身につけた職員の育成につながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や他の施設との交流機会を持ち、質の向上につなげられるように取り組んでいる。介護支援専門員協議会、鹿児島県グループホーム協議会に入会し、研修等に積極的に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の場合、本人、ご家族にホームを見学してもらいサービス利用に繋げている。やむ得ず緊急で利用が始まった場合でも、ご家族や以前関わっていた方の協力を得るなど工夫して対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の喜怒哀楽に注目し、理由や訳を考えながら共感し支えあえるような関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接表現できない入居者の場合でも、表情や言葉の中から希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前の面談を通じて、これまでの生活や今後の希望などの情報を得て介護計画を作成し、定例の職員会議、担当者会議等において報告し共有に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しも、必ずご家族を含めて評価を行うよう努めている。入居者の状態が変化するなどして新たな計画が必要な際には、随時スタッフと話し合い計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの見学や病院受診の際に、自費契約でヘルパーを利用する際の支援等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を確認した上で、納得の得られたかかりつけ医から適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に備えて、事前にご家族及び本人へその際の対応を説明し、その内容を主治医へ伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図りながら、誇りやプライバシーを損ねないような対応を行っている。また個人情報に関しては、個人情報取り扱い同意書に基づいて適切に対応されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは設定しており、一人ひとりのペースを大切にしながらも、食事やお茶の時間等、一緒に過ごす時間も大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和やかな雰囲気の中で、職員も一緒に食事をしている。必要な方には、ごく自然に言葉かけや食事介助が行われている。台所は、入居者が調理や後片付けなどがしやすい作りになっている。また季節によっては、菜園の野菜を食材として使ったり、庭でのバーベキューによる食事会を行ったりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な曜日や時間帯は決まっているが、入居者の希望や状況、タイミングを図りながら支援するように心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑づくりや洗濯物干し、洗濯物たたみなど、気晴らしに繋がるように、また得意な分野を促すことで、自信や喜びを感じてもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や買い物など、その日その日の希望にそって出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。安全面を確保する為に、見守りや職員同士の連携プレーが行えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者も一緒に避難訓練や防災訓練を行っている。運営推進会議の中で、地域からの協力も得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量については、摂取状況のチェックが行われている。入居者の身体状況や健康状態に合わせ、それぞれにあわせた対応をとるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほどよい飾り付け、やや広めの居間・食堂、テレビ・テーブルの配置など、入居者への配慮や工夫が見られる造りである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使い慣れたものをたくさん持ち込まれている入居者が多く、そのほかの方も、本人が居心地よく過ごせるものを飾るなど工夫をしている。		